

# 近畿学校保健学会通信

No.115

平成18年10月19日発行  
近畿学校保健学会事務所  
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11  
神戸大学大学院総合人間科学研究科  
発達支援論講座川畑研究室内  
TEL & FAX 078-803-7739  
URL: <http://home.kobe-u.com/kinki-sha/kinigakkohokengakkai@yahoo.co.jp>  
振替口座 00940-5-181826

## 目 次

### 第53回近畿学校保健学会(平成18年度年次学会)報告

1. 第53回近畿学校保健学会を終えて .....2
2. 一般講演座長報告 .....3
3. 特別講演座長報告 .....6
4. 基調講演座長報告 .....7
5. 教育講演座長報告 .....7

### 平成18年度近畿学校保健学会総会(評議員会)報告 .....10

### 幹事長を退任するに当たって .....15

### 幹事長に就任するに当たって .....15

### 平成18年度第2回近畿学校保健学会幹事会報告 .....16

## 第 53 回近畿学校保健学会(平成 18 年度年次学会)報告

### 1. 第 53 回近畿学校保健学会を終えて

学会長 津田謹輔  
(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

第 53 回近畿学校保健学会は去る 6 月 17 日京都大学百周年時計台記念館で予想を上回る多くの先生方をお迎えして無事に終了致しました。お世話をさせていただいたものとしてこの場をかりてお礼申し上げます。

会場は京大のシンボル時計台のところにあるきれいな会場ですが、人気があり、1 年前に予約にいったところ競争相手がありジャンケンの結果勝ち取った会場でした。設営はすべて研究室一同で行わなければなりませんでした。

なにぶん少人数の研究室ですので至らぬところが多々あったことと存じます。ご容赦をお願い致します。今回の試みとして発表はコンピューターを用いて行いました。切り替え装置を用意して無事トラブルなく終えることができました。

18 の一般演題は3会場にわかれて行われました。座長の先生にまとめていただきましたようにいずれも興味ある演題でした。横尾能範先生の近畿学校保健学会全資料アーカイブ化の演題は参加者全員に聴いていただきかけたのですが時間の関係で一般演題で発表いただきました。しかし幸い総会の間でもプレゼンテーションしていただくことができました。京大内の web に入れるよう何度か京都まで足をお運びいただき準備していただきました。大変ありがとうございました。

特別講演、教育講演は、大変お忙しい先生方ばかりでしたが、全員快くお引き受け下さいました。今回は生活習慣病を念頭において構成しましたが、どの講演も期待通りに学校保健学会にふさわしい内容であったと思います。教育講演で食育をテーマの一つに選びました。健康にとって食習慣、運動習慣が重要であることは周知の事実です。今回京都栄養士会にも参加をよびかけ、また後援もいただきました。今後学校栄養士も本学会に積極的に参加してくれることを願います。

高齢社会、少子化が進行するなかで、将来の日本を背負う児童、生徒、学生は多くの時間を学校で過ごし成長していきます。子どもたちの心身の健康と健やかな成長を目的とする学校保健の存在意義は大きいものです。本学会の益々の発展を祈念致します。

## 2. 一般講演座長報告

### I 会場

#### 性教育

座長 後和美朝(大阪国際大学)

##### I -1 今日の米国における青少年に対する包括的セクシュアリティ教育に関する検討(森脇裕美子他)

米国の SIECUS による「包括的セクシュアリティ教育のためのガイドライン」の第 3 版(2004 年)を資料として、日本の学校で実施されている性教育の内容を検討したものである。資料としたガイドラインは教育効果を具体的に想定したものであり、本資料をもとに作成された具体的な性教育の進め方についての研究報告を期待したい。

##### I -2 中学生における性行動の関連因子(今出友紀子他)

性にかかわる危険行動防止プログラムの開発のための基礎的資料を得る目的で、性行動が活発化する前の中学生を対象にセルフエスティーム、健康行動に関する態度等について調査したものである。調査結果から、性交経験とセルフエスティーム、ストレス対処スキル、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する行動や考えとの間に密接な関係があることを明らかにしていた。また、ライフスキルの向上や危険行動の防止につなげる包括的な指導の必要性が示され、その具体的内容について今後の調査研究がさらに期待される。

##### I -3 養護教諭が行なう保護者との性教育懇談会の実践報告—知的障害養護学校における性教育の一例—(磯田宏子)

思春期にある知的障害児に対しての家庭での性教育の進め方について、養護教諭と保護者の取り組み方についての事例報告である。懇談会形式で行なわれ、養護教諭は保護者の生の声を聞ける機会となっただけでなく、保護者同士も問題点を共有し、お互いが助言することによって安心感を得たとの報告があった。また、このような取り組みが行なわれ、学会で報告されることは非常に意義あることであるとの指摘がなされ、さらに事例を集め、マニュアルの作成等の今後の発展が期待される。

#### 養護教育・ストレス

座長 板持紘子(滋賀医科大学)

##### I -4 学生の学習支援システムの構築—子供の心を支援できる養護教諭を目指して— ⑤小学校での喫煙防止教育(大川尚子他)

養護教諭養成課程の学生が積極的に保健の授業ができるようにと今回は喫煙防止についてのクイズやパネルシアター等教材を作り実際に指導した結果である。その結果授業に自信のなかった学生の 67%が自信を持つことができた。この研究は毎年テーマを決めて実施されており、①適応指導教室との連携、②体験学習を通して、③メールによる不登校生徒の支援、④保健所との連携等、今回で 5 つ目の実践研究である。今回は希望者による 9 名の報告についてであった。この授業の実践は受け入れ校等の問題で困難な点多いと思われるが、カリキュラムの中に位置づけられ全学生が体験できる工夫がなされたいと思った。

##### I -5 発達障害に関する学習会参加者の養護教諭への思い(笠井恵美他)

この研究は発達障害にかかわりのある人たちは養護学校に勤める養護教諭に何を期待するかについて、発達障害学習会に参加した保護者、教師等を対象にアンケート調査した結果の報告である。保護者の期待は発達障害に関する知識の習得が最も多く障害をわかってほしいということと推測されたとのこと。報告の中に障害があるからと保護者がいつまでも添い寝をしたり、川の字で寝たり、二次性徴の問題も述べられた。参会者からはなかなか取り上げにくい問題の提案に賛意が述べられた。発達障害に関わる養護教諭の難しい状況の中ではあるが、障害を持つ子供たちが生き生きとした学校生活を送ることのできる支援の研究が望まれる。そして、障害児学校に勤める養護教諭は、生徒や保護者、教師の願いは何かを知り、専門性をどのように発揮できるのか今後の活動を期待したい。

## **I -6 中国の日本人学校における児童生徒のストレス状態(森岡郁晴他)**

上海の日本人学校と和歌山市内の小・中学校についてメンタルヘルス・チェックリスト、生活実態調査票を通してメンタルヘルスと生活実態について前記3校を比較した研究である。上海の学校は取り巻く住居環境は異なるが、一歩学校に入れば日本とまったく同じであるという表現がなされた。しかし、学年が進むにしたがって上海の日本人学校の方が学力の面、先生との関係でストレス度高くなっていた。生活実態面では上海の日本人学校の方が学校が好き、朝食の欠食が少ない、元気で通院者が少ない、スポーツに通っているものが多かった。また学校が好きかどうかと学業の関連要因があり、学校が好きでない者ほど学業にストレスを感じていた。アンケート調査ひとつを行うのにも大変難しい学校現場で、調査の協力校も得ながらの研究である。海外における日本人学校の生徒の心身の健康状態、特にストレスに関する調査は少なく興味深い発表であった。

## **II 会場**

### **保健活動・事故**

座長 西岡伸紀(兵庫教育大学)

#### **II -1 小学校における学校飼育動物に関する飼育状況調査(中村健他)**

小学校152校を対象に2005年に行った学校飼育動物に関する調査結果の報告である。飼育種としては、ウサギ、魚類、ニワトリの順に多く、カメ(2006年3月に文科省より飼育を控えるよう通知)も見られた。また、飼育者は主に児童であった。衛生管理の主な方法は手洗いであったが、衛生管理を特に行っていない学校も21%認められた。また、ズーノーシス(人畜共通感染症)の認知は低く、約半数が「全く知らない」結果であった。

質疑応答としては、ハトの飼育に関する質問があり、病原体としてクリプトスポリジウム、鳥インフルエンザウイルスの懸念があること、飼育の際には糞の早期除去が重要であることが回答された。また、ズーノーシスの理解度について質問があり、認知、理解を広げる必要性が述べられた。

#### **II -2 小学校児童の事故発生要因に関する検討(発表時に「要因」を追加し、表題を変更)(志村美好他)**

平成11年入学児童を対象に、以後6年間、災害共済給付の事故の発生状況を追跡的に調査した結果の報告である。総数で見ると、発生件数では男女差が顕著であり、発生要因についても男子のほうが高率であった。また、別紙により、事故回数2回以上の者について、個別の発生状況、部位、傷病名、要因が報告された。結果は、個人により多様なものであった。

質疑応答では、発生状況と、運動能力、曜日、時間帯との関連性について質問された。運動能力との関連は未検討、曜日との関連は認められない、時間帯では休憩時間に多発したとのことであった。

#### **II -3 中学校・高校における応急処置—AEDの導入と問題点—(藤原寛他)**

2005年に大阪府下の中・高校各50校を対象として行ったAED設置、応急処置等に関する質問紙調査の結果の報告である。有効回答は中学校34校、高校28校であった。回答は養護教諭、保健体育教師、管理職等から行われた。AEDを設置していたのは中学校4校、高校9校であった。未設置校においても大半は設置が必要としていたが、中学校4校、高校8校では「必要なし」と答えた。教職員対象の応急処置の講習会は中高とも半数弱で行われていたが、AEDを含む講習会を実施したのは少数であった。

質疑応答では、AED設置の財源について質問され、PTA予算との回答であった。

### **いのちの教育**

座長 北村陽英(奈良教育大学)

#### **II -4 いのちの教育(V報)—死の認識についての医学部との比較から—(高内正子他)**

大学生に、子ども時代の死の認識についての経験と飼育動物の死の経験を、所属学部別(医学部とそれ以外の学部)に比較調査したものであった。医学部学生は死について考える機会が多いという結論であっ

た。

### II-5 いのちの教育(VI報)—青年期の自殺に対する考え方をとおして—(高山昌子他)

大学生に、死生観、死の認識に関する 50 項目の質問をし、回答結果から調査対象者のうち、自殺肯定群は 3.7%、自殺否定群は 74%であったという。また両群間で、自己の健康評価、生活リズム、テレビゲームの経験、宗教活動、死後の世界観、などにおいて差がみられたという。

### II-6 いのちの教育(VII報)—青年期の終末医療への関心—(佐伯洋子他)

教育保育と医学部の学生間で、終末医療への関心度に差がみられ、終末医療に関心のあるものは宗教への関心が高く、また自己の死についての意識が高く、終末医療への関心度には学部、不安尺度、飼育動物の死、宗教の本が関与しているという結論であった。

## III 会場

### 肥満・生活習慣

座長 宮下和久(和歌山県立医科大学)

### III-1 若年者における自律神経機能とアドレナリン受容体遺伝子多型との関連(松永哲郎他)

健常な男子大学生(21.3±0.2 歳)149 名を対象に、心臓自律神経機能との関連が強く示唆されるアドレナリン受容体遺伝子多型  $\alpha 1A$ -AR(347: Arg→Cys)、 $\alpha 2A$ -AR(-1291: C→G, DraI RFLP: 6.7-Kb→6.3-Kb)、 $\alpha 2C$ -AR(Del322-325: 4 アミノ酸 Insertion/Deletion)、 $\beta 1$ -AR(49: Ser→Gly, 389: Arg→Gly)、 $\beta 2$ -AR(16: Arg→Gly, 27: Gln→Glu)について、自律神経機能への影響を検討した。

その結果、複数のアドレナリン受容体の遺伝子多型が交感-副交感神経バランスまたは自律神経活動に差異をもたらすことが明らかになった。多数の先行研究により、これら遺伝子多型は高血圧、心疾患、肥満との関連が認められており、その原因として自律神経の機能的差異が関わっている可能性を示唆する発表であった。

自律神経機能と生活習慣病を反映するより客観的な外的評価基準での検討、健康管理の場における、特に健常人の遺伝子情報の取扱いの倫理的側面などについて議論された。

### III-2 思春期女子における BMI の動きと初経との時系列的関連(五十嵐裕子他)

1999 年度と 2000 年度入学の女子生徒 139 名を対象に BMI を算出し、さらに初経発来時期を面接法により調査し、初経発来時期と BMI の推移を縦断的に検討した。初経初来時期を基準にした時間軸で BMI の推移を見ると、初経初来の前後1年間に BMI が急激に増加し、その分布は、初経初来を機に、分散が大きくなり、指導が必要なやせ傾向や肥満傾向を示す者が見られた。この基準チャートに自己の BMI 値を当てはめることで、自分の体型がどのように変化していくのか、そのプロセスを知ることが、やせ願望の予防につながる可能性を示唆した発表であった。やせ願望者の BMI 変化と食生活の変化および月経周期の乱れとの関連について議論があった。

### III-3 思春期の血清レプチン濃度と肥満との関連(内海みよ子他)

2 年以上連続して身体計測ならびに血清レプチン濃度の測定ができた 12 歳から 19 歳の男子 436 名を対象に、血清レプチン濃度を血清レプチン濃度基準チャートを用い評価し、体重については身長-体重発育基準チャートを用い、両者の経年的な関連を検討したものである。

その結果、体重と血清レプチン濃度との間に強い相関がみられ、さらに、両者の時間的推移をみると、レプチン濃度と体重との変動に時間的なずれが見られるケースがあるとの報告があった。体重増加とレプチン抵抗性、レプチン濃度と体重のずれの見られるケースについてのライフスタイルの変化等について議論があった。

#### Ⅲ-4 学齢期小児における栄養摂取パターンの20年間の推移(永井純子他)

町上げての取り組みで知られる五色町での健康実態調査より学齢期小児の栄養摂取の特徴、摂取パターンから、生活習慣病のリスクについて研究されたものである。それによれば、総エネルギー摂取量で小・中学とも男子が女子に比し多く、小学では男女とも増加しているが、中学になるとどちらも減少の傾向にある。主要栄養素別に見ると女子は男子に比し、脂質摂取エネルギー比率が多い反面、糖質エネルギー比率は減少する傾向が見られる。このように、総エネルギー摂取量や主要栄養素別エネルギー比率は学年や性別により異なるとの結果を得られた。そのことは20年で何が変わったのか、今後豊富なデータを基に明らかにされることを期待する。

#### Ⅲ-5 大学生の咀嚼能力と生活習慣との関連(井上文夫他)

最近の食環境の変化は人々の食生活を乱す原因となり、その結果、食べる機能の低下が問題となっている。その中でも、生活習慣要因により影響される咀嚼能力について、咀嚼という運動能力が生活習慣とどのような関連があるか検討された。生活習慣として取り上げられた睡眠、排便、運動、歯、食習慣に関する質問を咀嚼能力測定時に行った結果、よく噛んで食べることを意識している人ほど咀嚼能力が高く、しかも幼少期から継続して意識することで高い咀嚼力を得るのでは？とまとめられている。また学校給食の果たす役割も大きく、正しい生活習慣、食習慣を継続させることが重要と結ばれた。

#### Ⅲ-6 近畿学校保健学会50年間の全資料アーカイブ化とWebによる公開(横尾能範)

最初に、この大事業を成し遂げていただいた関係者の皆様のご努力に敬意と感謝を申し上げる。近畿学校保健学会が50年を迎えたのを期に、「過去の研究成果を、誰もが、何処からでも、いつでも閲覧できるデータベース」を2年かけて作成された。学会のサイトに入ると、整理された項目が並び、見たい項目をクリックするとみごと50有余年の一覧が出てくる。まさに書物の背表紙を見るがごとくで、確実に見たい年度の資料を目にすることができる。さらに特徴は検索(複数の語句で)で過去の資料、求める資料が容易にレビューできる。このようにパソコンを使い説明された。今後大いに活用させていただこうと思う。

### 3. 特別講演座長報告

#### 「聞くことの効用 ―聞くことがどうしてケアになるのか」

講師 東山紘久(京都大学副学長)

座長 津田謹輔(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

東山先生は、教育学がご専門で臨床心理士の資格をもっておられます。多くの本をお書きになっていますが、そのなかで「プロカウンセラーの聞く技術」(創元社)を読み大変感銘をうけました。今回本学会で直接お話しを聞く機会を得ました。冒頭に述べられた話が印象的でした。成績のおもわしくない生徒が「A大学に行きたいな」と言ったとき2つの対応を述べられました。1つは「何言ってるんや。自分の成績考えてみる。」もう1つは「そうか、A大学に行きたいんか」と答える。そうすると本人の口から「今のままではだめだなあ。がんばらなあかな」という言葉がでてくる。素直に聞くこと、相手が話し、それを受け止める、相手がまた話しそれを聞き入れる。相手主導の会話が重要であるとのべられた。人の悩みは、1)理想自己と現実自己の乖離、2)自分は誤解されやすいといった他者認知と自己認知の乖離、3)現実の課題と自分の器の乖離から生じてくる。そのような悩みを持つ人の本音が聞ける人間関係を築くのがカウンセラーであるが、聞くことが人間関係の基本である。その際相手の話に関心を持つ、素直に聞く、嘘をつかない、言い訳しない、聞き出そうとしないことが大切であると述べられた。聞くときに多くの相づちの仕方をもっていることも大切である。カウンセラーの時には無口に、講演会では6つの口の6口になるとおっしゃっていた先生のお話は1時間では物足りなくもっとお話しをききたいと思った特別講演であった。

#### 4. 基調講演座長報告

##### 「健康科学 ―予防医学は子供のころから」

講師 津田謹輔(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

座長 八木 保(京都大学名誉教授)

3 会場に分かれて行われていた一般研究発表が延長して終わり、予想を越えた参加者の数に対応し、第1・第2会場の仕切りを開いて会場を広げ、プログラムは学会長による基調講演へと進んだ。

従来よりの、急性疾患に対しては治療か死かという、医者まかせの病態から、患者による自己管理も要せられる慢性疾患へと疾病構造が変化している今日、すなわち、生活習慣病といわれる病態が多くを占めてきている中で、健康教育における食事と運動の重要性が増している。

平成17年6月に制定された**食育基本法**に、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力をつけていくためには、なにより「食」が重要である。知育、徳育及び体育の基礎となるべきものとして位置づけるとともに…」とも述べられ、平成18年3月の**食育推進基本計画**に、食育の推進に当たっての目標値として、「食育に関心をもっている国民の割合の増加」をはじめ9項目が掲げられているが、この中に「内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)を認知している国民の割合の増加」もある。生活習慣病の代表ともいえる**メタボリックシンドローム**が叫ばれる今日、これには遺伝によるところもあるのであるが、生活習慣とされる中で、その基準のひとつに腹囲が該当している。女性の場合90cmとされているものが、やがて、80cm以下に見直されるであろうということなど、診断基準はなお検討されていることをはじめ、小児成人病、子どもの肥満増加、細身願望、欠食習慣、3食の配分と肥満との関係などについて、細胞レベルでのメカニズムから食事バランスガイドまで、写真イラストなどの映像とともに示された。

学校保健の中での食育を指摘、さらに、特別講演の案内、教育講演プログラムへの導入がなされ、短い時間が惜しまれた。

#### 5. 教育講演座長報告

##### 教育講演1

##### 「肥満と食育 ―学童期の運動と肥満」

講師 永井成美(岡山県立大学保健福祉学部栄養学科専任講師)

座長 笹山 哲(京都大学医学部保健学科助教授)

学会長による基調講演の盛り上がりを引き継ぎながら、最初の教育講演が開始された。基調講演でも指摘された、子どものころからの予防医学の重要性を実践的介入研究の面から実証するものであった。

学童期の子どもを対象とした「小児肥満改善教室」において、栄養・運動指導を行い、対象群と比較してその介入効果を評価すると、介入群では有意に肥満度の減少がみられた。肥満度改善に有意に関連する項目として、朝食を欠食しない、夕食後に飲食をしないこと等とともに、親が子どもの肥満改善に意欲的・積極的であることがあげられ、家庭における環境の影響の大きさが改めて認識させられた。また、学童期の子どもを対象とした「肥満予防教室」では、教室参加児童から参加児童以外の児童へ、さらには児童から母親へと食育指導の波及効果が認められた。

日本の若年女性はダイエット志向が強く、20歳代女性の4人に1人がBMI 18.5以下の「やせ」であると言われているのが現状である。一方で、普通体重以下でありながら体脂肪率が高い「隠れ肥満」や「隠れ肥満傾向」が20歳代女性の3~4割もみられるとの報告もある。「隠れ肥満」・「隠れ肥満傾向」の若年女性を被験者に2週間の食事介入を行った結果、短期間でありながら体重、体脂肪率、ウエスト周囲径の減少が有

意に認められたこと、心拍変動係数のうち交感神経活動を反映する LF Power が有意に増加したこと等が示された。

小児成人病や朝食欠食の問題と学校給食のあり方等、学校保健の中でも関心の高い肥満と食育の話題について、実践的な運動介入および食事介入研究の成果を提示しながら、限られた時間の中で上手く纏められた講演であった。

## 教育講演 2

### 「禁煙をめぐる最近の話題」

講師 高橋裕子(奈良女子大学教授)

座長 白石龍生(大阪教育大学教授)

奈良女子大学大学院教授 高橋裕子先生による教育講演は、大きく分けて、健康増進法および禁煙についての国際条約の批准、受動喫煙の健康へのリスクおよびタバコを知らない世代を育てるための努力の3点について、実験データおよび統計データを駆使しての解説によってなされました。特に印象に残ったお話は、喫煙者が外でタバコを吸い、帰宅した場合、その家族は、受動喫煙を受けているということでした。

喫煙者に対しては、禁煙は必ずできることを知らせ、勇気付けること、タバコを手にするこのない子ども達を育てるには、周りの社会が、タバコを吸わない社会になることが大切であり、そのためにこそ、早期の喫煙防止教育が重要であることを痛感しました。

また医療関係者と教育関係者が同じ目的を持って対処することの重要性を再認識いたしました。

## 教育講演 3

### 「生活習慣病の中の肝硬変 —アルコール：飲みすぎても、飲まなくても肝臓が悪くなる!？」

講師 福田善弘(京都大学医学部保健学科教授)

座長 川村 孝(京都大学保健管理センター)

福田善弘先生には「飲みすぎても、飲まなくても肝臓が悪くなる!？」という、一見オヤツと思うタイトルで、肝臓の基本から最近の肝疾患の概念や対処法まで幅広く解説していただいた。古典的な肝炎や脂肪肝だけでなく、E型肝炎や非アルコール性脂肪肝炎(NASH)に関する最近の知見もお教えいただいた。肝疾患というと学校保健では縁遠いと思われがちであるが、アルコールによる肝障害は大学生はもちろん、中高生でも問題になりうるし、過食や運動不足による脂肪肝は受験生で見られる。またウイルス性肝炎もピアスやタトゥー、性行為など、若年者の生活習慣と密接に関連する。学校保健においても、これらの肝障害に対する知識をしっかり持って学生や生徒に向き合わなければならないことを改めて感じさせられた。

「学校における性教育の課題と展望」

講師 木原正博(京都大学大学院医学研究科教授)

座長 石川哲也(神戸大学発達科学部教授)

予定講師の急用により、京都大学大学院医学研究科助教授、木原雅子氏から木原正博氏に変更となった。

(1) 若者の性行動や性意識の現状

東京都幼・小・中・高・身障性教育研究会の調査による性行動の早期化に触れながら、それとともに性的パートナーが多様化しており、また性意識も性行動を容認するようになってきたとの指摘がなされた。

(2) 性行動問題の社会的構造

性行動の原因として、性産業の氾濫や携帯電話の普及、人間関係の希薄さ、セルフエスティームの低さなどが挙げられ、それらの原因として大人の責任を挙げている。

(3) 予防教育

予防教育として演者らが推進している Well-being of Youth in Social Happiness (WYSH) プログラムが紹介された。それらは、性教育に対する社会的役割を明確にしながら、新健康信念モデル、行動段階モデル、計画行動理論、警告受容プロセスモデル、消費者情報処理モデル、情報拡散モデル、パウロ・フレイレの課題提供型教育を取り入れている。

それらによる授業モデルの組み立て、実践に関する講演がなされた。

## 平成 18 年度近畿学校保健学会総会(評議員会)報告

日時 平成 18 年 6 月 17 日(土曜日)

場所 評議員会 京都大学百周年時計台記念館  
国際交流ホール (12:05～13:00)

総会 京都大学百周年時計台記念館  
国際交流ホール (13:15～14:00)

### 議題

- 1 平成 17 年度会務報告(資料 1)
- 2 平成 17 年度決算報告及び会計監査報告(資料 2)
- 3 平成 18 年度予算(資料 3)
- 4 近畿学校保健学会会員数及び名誉会員名簿(資料 4)
- 5 平成 18 年度及び 19 年度役員選挙結果報告
- 6 平成 18 年度及び 19 年度幹事長承認
- 7 名誉会員の推薦
- 8 次期学会開催地及び会長  
開催地:兵庫県  
年次学会長:石川哲也(神戸大学発達科学部)
- 9 その他

平成 17 年度近畿学校保健学会会務報告

1. 会員数 307 名(名誉会員 17 名を含む):平成 18 年 4 月 1 日現在
2. 会議開催, 学会通信など
  - 平成 17 年 6 月 4 日 第 1 回近畿学校保健学会幹事会開催  
(於:ビッグ愛(和歌山))
  
  - 平成 17 年 6 月 21 日 近畿学校保健学会通信 No.111 発行
  
  - 平成 17 年 7 月 30 日 第 52 回近畿学校保健学会年次学会開催  
(学会長 宮西照夫)(於:ビッグ愛(和歌山))
  
  - 平成 17 年度評議員会及び総会開催  
(於:ビッグ愛(和歌山))
  
  - 平成 17 年 10 月 17 日 近畿学校保健学会通信 No.112 発行
  
  - 平成 18 年 2 月 4 日 第 3 回近畿学校保健学会幹事会開催  
(於:神戸大学発達科学部)
  
  - 平成 18 年 3 月 2 日 近畿学校保健学会通信 No.113 発行
  
  - 平成 18 年 3 月 4 日 近畿学校保健学会選挙管理委員会開催
  
  - 平成 18 年 3 月 29 日 近畿学校保健学会選挙管理委員会開催

## 近畿学校保健学会平成 17 年度決算報告

平成 18 年 3 月 31 日現在

## 【収入】

	予算額	決算額	増減比	摘要
会費収入	963,000	867,000	-96,000	3000 円×289 人
雑収入	0	30,000	30,000	50 周年記念誌代 6,000 円×5 冊
前年度繰越金	754,788	754,788	0	
合計	1,717,788	1,651,788	-66,000	

## 【支出】

	予算額	決算額	予算額 -決算額	摘要
印刷費	300,000	163,800	136,200	学会通信 (no. 111-113)
郵送費	200,000	149,950	50,050	
事務費	100,000	52,095	47,905	
人件費	100,000	79,450	20,550	
会議費	30,000	10,704	19,296	
交通費	20,000	1,000	19,000	
年次学会補助金	250,000	250,000	0	京都へ支出
役員選挙	60,000	34,772	25,228	
ホームページ維持費	50,000	0	50,000	未払い (次年度支出) 50,000 円
アーカイブ作成費	200,000	0	200,000	未払い (次年度支出) 350,000 円
予備費	407,788	3,900	403,888	年会費返却 1 人、弔電
次年度繰越金		906,117	-906,117	
合計	1,717,788	1,651,788	66,000	

上記の通り相違ありません

平成 年 月 日

監事

監事

## 平成 18 年度予算

## 【収入】

	予算額	前年比	摘要
会費収入	870,000	-93,000	3000 円 × 290 人
雑収入	0	0	
前年度繰越金	906,117	151,329	
合計	1,776,117	58,329	

## 【支出】

	予算額	前年比	摘要
印刷費	200,000	-100,000	学会通信 (no. 114-116) 発行予定
郵送費	180,000	-20,000	学会通信等郵送費等
事務費	100,000	0	ファイル、封筒等の郵送品
人件費	100,000	0	資料整理、発送等の人員雇用
会議費	30,000	0	幹事会 (年 3 回程度)
交通費	10,000	-10,000	学会等における荷物運送費
年次学会補助金	250,000	0	神戸へ支出
役員選挙	0	-60,000	今年度はなし
ホームページ維持費	100,000	50,000	年間契約 (前年度未払い分を含む)
アーカイブ作成費	350,000	150,000	前年度未払い分
予備費	456,117	48,329	
次年度繰越金	0	0	
合計	1,776,117	58,329	

## 近畿学校保健学会会員数

平成 18 年 4 月 1 日現在

所属	名誉会員	評議員	一般会員	計
滋賀県	2	26	18	46
京都府	2	22	14	38
大阪府	6	56	35	97
兵庫県	2	37	13	52
奈良県	3	25	7	35
和歌山県	2	23	13	38
他府県	0	0	1	1
計	17	189	101	307

## 名誉会員名簿 (17 名)

平成 18 年 4 月 1 日現在

年	氏名	所属
	黒田健雄	和歌山
平成 2 年	安藤格	大阪
平成 6 年	橘重美	奈良
平成 8 年	植村良雄	滋賀
平成 8 年	米田幸雄	京都
平成 10 年	出口庄佑	奈良
平成 12 年	上林久雄	大阪
平成 14 年	杉浦守邦	京都
平成 14 年	玉井太郎	大阪
平成 15 年	後藤英二	大阪
平成 15 年	竹田斌郎	奈良
平成 15 年	南條徹	滋賀
平成 16 年	上延富久治	大阪
平成 16 年	大山良徳	大阪
平成 16 年	美崎教正	兵庫
平成 17 年	近藤文子	兵庫
平成 17 年	虎谷良雄	和歌山

## さらなる発展を期待して—近畿学校保健学会幹事長を退任するに当たって—

神戸大学発達科学部  
石川哲也

日本で最も歴史と伝統のある近畿学校保健学会の幹事長に推挙され、二期が経ちました。その間、会員の皆様には、学会の発展のため様々のご協力を戴き、ありがとうございました。

私が、新幹事長に推挙された平成 14 年は近畿学校保健学会 50 周年記念の各行事の準備の真っ最中でした。武田眞太郎、林正、勝野眞吾歴代幹事長の下、様々な事業が着々に行われていました。私は、その熱意に心を打たれました。また、そのころ、同時に森昭三理事長の下行われていた日本学校保健学会 50 周年記念行事のお手伝いもしていましたが、その企画と準備のレベルの低さと非民主的な運営に、怒りを抑えることができませんでした(その後、実行委員を怒りとともに辞退しました)。

近畿学校保健学会 50 周年記念事業は見事成功し、記念誌、シンポジウム等多くの成果を残しました。また、これらの行事が、会員からの特別な寄付金によって成し遂げられたものであることも特筆すべきことです。さらに、その資金によって、近畿学校保健学会アーカイブを完成させました。これは、ひとえに神戸大学名誉教授の横尾能範先生のお力によるものでした。近畿学校保健学会の全ての歴史と今が、誰でも、どこでも必要なときにインターネットを介して見るできるようになりました。これは、我々が知る限りでは他の学会にもない、誇るべき成果だと確信しています。

今、私は、日本学校保健学会の他の地方の会員と話をする機会が多くあります。その中でも近畿学校保健学会は、他に類をみないほど際だって高い水準にあります。それは、会員数と活動状況にみることができます。幹事は年に 3 回以上、自費で集まり、近畿学校保健学会の活動をリードしています。

今後の課題としては、会員数の増加にあると考えています。会員 400 名を目指して、川畑徹朗新幹事長には頑張って頂きたいとの願いを込めて、バトンタッチを致します。

## 課題に応えるべく—近畿学校保健学会幹事長に就任するに当たって—

神戸大学大学院総合人間科学研究科  
川畑徹朗

このたびの総会において新幹事長に推挙されました川畑です。同じ大学の人間が続けて幹事長を務めるのはいかがなものかとも思いましたが、その任にふさわしい方々がいずれも大学の要職にあるということをお聞きし、お引き受けすることに致しました。

お引き受けした以上は、本学会の発展のために、私の力の及ぶ範囲で貢献するつもりであります。本学会にはいろいろな課題があると思われませんが、石川前幹事長が指摘されていますように、会員数の増加は何よりも優先的に取り組むべき課題でしょう。研究者、院生・学生、現場の先生方に本学会の存在をアピールし、会員になっていただくように、様々な方策を考えて行きたいと思えます。

もう1つの課題は、学会会員へのサービスの向上です。年会費に見合う、あるいはそれ以上のサービスを提供することを考えねばなりません。もっと読みやすく、魅力的な会報あるいはホームページにすることもその1つでしょう。あるいは年次学会とは別に講演会や研修会を開催して、新たな会員を発掘することも必要かも知れません。また、会則や役員選出規定を見直し、より開かれた学会にすることも必要であるように感じます。

以上のすべてを任期中に達成することは困難かも知れませんが、せめてその道筋だけはつけたいものだと考えております。どうぞ皆様のお知恵とお力をおかし下さい。

## 平成 18 年度第 2 回近畿学校保健学会幹事会報告

日時 平成 18 年 9 月 9 日(土) 14:00～15:30

場所 神戸大学発達科学部 HC センター

出席 大谷、谷川、井上、吉岡、石川、川畑、永井(純子)、西岡、北村、辻井、山本、武田、宮下、森岡

### 議事

#### (1) 監事の選出について

近畿学校保健学会会則第 11 条及び役員選出規定第7条に則り、川畑幹事長より以下の 2 名の方が監事として推薦され、承認を得た。

- ・大阪市立大学 春木敏先生
- ・関西福祉科学大学 西牧真里先生

#### (2) 近畿学校保健学会通信 No.115 の発行について

川畑幹事長より、10 月発行予定の学会通信 No.115 から現行の B5 版を A4 版に変更したいとの提案があり、質疑の後了承された。

#### (3) 学会活動活性化委員会(仮称)の設置について

以下のテーマについて意見交換をした後、幹事会での議論に付す原案を作成することを目的として学会活動活性化委員会(仮称)を設置することとなった。委員としては、幹事に限定せず広く会員の中から募ることとなった。

- ① 会員の増加
- ② 役員選挙規定の見直し
- ③ 会員サービスの向上

#### (4) その他

川畑幹事長より、学会ホームページの担当者である中村晴信評議員(神戸大学発達科学部)が次回の幹事会からオブザーバーとして出席することについて了解を求める提案があり、了承された。

### 編集後記

幹事会報告にもありますように、今回の学会通信から A4 版にいたしました。読みやすさや、ページ数を押さえることを考慮してのことですが、B5 版に慣れておられた方はしばらく違和感を覚えられるかも知れません。ご寛容の程、お願い申し上げます。

幹事会においても、学会通信をより魅力的なものにすることは、会員サービスの一つであるというご意見がありました。是非、学会通信をより魅力的で読みやすいものにするためのアイデアを御寄せ下さい。

また同じく幹事会報告にありますように、学会活動を活性化するための案を練り、幹事会に提出することを目的として、学会活動活性化委員会(仮称)を設置することとなりました。学会の発展を願う会員なら、幹事、評議員、一般会員の別を問わず、どなたでも大歓迎です。是非、ご連絡下さい。

近畿学校保健学会幹事長 川畑徹朗